いわむろ

発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K・K

No.59

(1)　昭和42年3月1日

広報「いわむろ」は村政とあなたを結ぶかけ橋

○ 村政に対するご意見，質問
○ 部落の話題……お寄せください。

春を告げる香

香で一杯，きれいな花は新潟市に出荷され団地族の心に，潤を与えている。（写真＝新谷　松本岡右エ門さん温室）

そとの椎は寒い寒いと泣いている，田んぼの畦道はまだ白い。ぼくランドセルもうあるよ，春よこい……外の温度はまだ冷たいが，ビニールの温室は春を告げる，赤黄紫のプリモラポリアンサ，サイネリアの花の

スカイライン開発によって
大きく発展、我が郷土
村長さんら囲んで懇談会

二月八日午後一時より役場会議室において、村長、助役、総務、観光課長を囲んで、『弥彦スカイライン開発とそれに伴う村政について』と題し広聴会の一環として懇談会が商工会青年部主催、公民館後援で開催されました。

隣接弥彦村観音寺温泉とともに、昭和三十八年、厚生省国民保養温泉の指定を受け、新潟市の奥座敷として発展し、スカイライン建設に伴って、今後、農業、商業、工業の全分野に変革も起きることだろう。また道路整備、諸施設とそれらに対応するだけの知識、心構えと大きく我々住民に影響を及ぼすことは必然であり、これらの問題に対して、村を更に発展を目的として開かれ、**①村政全般について**、**②村の道路計画**、と題して村長が説明、内容概要は、地方自治体の財政難で三割自治すらできない状態であるが、しかし現実は財政難に相反するごとく数多くの事業が目白押しに要望されているのが現況で、ゴミ処理等は早急にどうしても必要な現状でありそして従前からの継続事業の完結等で仲々容易なからざる事業分量であり、せめて今年度は主力を従来から手がけた事業の総仕上げの年として、その整備に努力を傾注する。だが早急に必要な事業は充分検討し実現を図りたい。

道路について、

岩室駅～岩室は村内縦貫する重要路線で早急な整備が必要である。駅前は今年度中に舗装し、継続工事で昭和四十四年までに岩室まで舗装完成し、観光、産業基盤振興の基とする。

樋曾～間瀬越道路改修で昭和四十四年迄完全舗装し、その先端は弥彦スカイラインに結びつける。

間瀬越～間瀬は昭和四十四年以降着工し間瀬海岸観光資源に結ぶと共に間瀬住民の交通不便の解消をする。その他橋梁架換等を推進したい。

続いて『一般行政と財政』と題して、総務課長より自治体の財政難について説明し、観光課長が、スカイライン建設と並行して、国民宿舎建設（国立公園、保養温泉の自然環境に恵まれたところを選び、誰もが安い費用で労働の疲れをいやし健康増進を図るために建設、厚生省が中心になり厚生年金、国民保険の積立金を地方公共団体に還元融資し建設、運営させるもので、現在全国で百五十位建設されている。）温泉プール建設、駐車場整備、釣堀センター、間瀬海岸ビーチセンター、松岳山に展望台建設、松岳山～天神山城跡を結ぶ史跡ハイキングコース建設等の観光客誘致諸設備の建設計画が具体的に発表された。

スカイライン開発は一地区住民、一業者、一個人の利益のために実施するのではなく、開発することによって広い低開発地区の総合開発するものである……と強調していた。説明終了後、参加者五十名によって熱心に質疑応答が行なわれたが、若い商工業者の年令層がほとんどで、意欲的に変化する状勢に対処しようとする気構えが見られた。それに反して、農業経営者が数人しか参加せず、農家の保守性がここにも現われていた。農家がもっと意欲的に公聴会に参加し勉強しない限り転換期にある農業が近代化から遠のいていくのではないか、しかし二人の女性参加者が真剣に討議に加わっていた。